



詠千首和歌

下

特 別
~ 4
8177
2





詠千首和歌

冬百首

初冬曉

この葉もろり風も應分強れきり
冬とけききーあうふのるる

初冬物

葉のあそりしむもりあきまき
こころもほろろちのるる所

初冬夜

あそりもあそりしむもりあきまき
あそりもあそりしむもりあきまき

阿波國文庫



あすむ

夕日ゆきまほのきりぎりす
あすむあすむあすむあすむ

あすむ

あすむあすむあすむあすむ
あすむあすむあすむあすむ

あすむ

あすむあすむあすむあすむ
あすむあすむあすむあすむ

あすむ

あすむあすむあすむあすむ
あすむあすむあすむあすむ

あすむあすむあすむあすむ

あすむ

あすむあすむあすむあすむ
あすむあすむあすむあすむ

あすむ

あすむあすむあすむあすむ
あすむあすむあすむあすむ

あすむ

あすむあすむあすむあすむ
あすむあすむあすむあすむ

あすむ

まじりの心風をしくみれまき
まじりし心のまじりし心

國守

いふもつり寝れ板をよめ
いふもつり寝れ板をよめ

曉

らり油ふこの心たえんぬ
しるすの心まじりの心

船

地り油ふこの心たえんぬ
地り油ふこの心たえんぬ

夕

あまのつもの心たえんぬ
あまのつもの心たえんぬ

風

あまのつもの心たえんぬ
あまのつもの心たえんぬ

海

あまのつもの心たえんぬ
あまのつもの心たえんぬ

山

あまのつもの心たえんぬ
あまのつもの心たえんぬ

を河をさるるぬりぬり

菅原集

梅子の花は別しゆみらむ

又ささしゆく若川のま

踏原集

再集らるるのまはらぬ

者よりさるるまはらぬ

楊梅集

河をさるるまはらぬ

あつに平のまはらぬ

庭原集

あつに平のまはらぬ
庭原集

菅原集

梅子の花は別しゆみらむ

又ささしゆく若川のま

踏原集

再集らるるのまはらぬ

者よりさるるまはらぬ

楊梅集

河をさるるまはらぬ

あつに平のまはらぬ

葉の歌

新緑の葉の影法師あき風は
たふしきうららかなるるるる

藤の歌

葉の影法師あき風は
新緑の葉の影法師あき風は

苔の歌

清風をぬりぬりよの影法師あき風は
日かげをぬりぬりよの影法師あき風は

草の歌

新緑の葉の影法師あき風は

新緑の葉の影法師あき風は

花の歌

新緑の葉の影法師あき風は
あき風をぬりぬりよの影法師あき風は

鳥の歌

新緑の葉の影法師あき風は
新緑の葉の影法師あき風は

池の歌

新緑の葉の影法師あき風は
新緑の葉の影法師あき風は

池の歌

唐入地ゆけよまほらあはれ
葉まらるるはるすあはれ

印をき

たふかくさきり松の河あはれ
こりこり入るるまほらあはれ

漢をき

冬枯のみれとれあはれまほらあはれ
こりこりあはれあはれのはらあ

苔をき

初なるまほらあはれまほらあはれ
あはれまほらあはれまほらあはれ

滝をき

えりりあはれあはれまほらあはれ
あはれまほらあはれまほらあはれ

湖をき

はらあはれまほらあはれまほらあはれ
あはれまほらあはれまほらあはれ

田をき

あはれまほらあはれまほらあはれ
あはれまほらあはれまほらあはれ

鳥をき

まほらあはれまほらあはれまほらあはれ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

清の香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

夕の香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

曉の香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

夜子の香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

清の香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

清の香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

清の香

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~





後う怪りしやれ新の板庇  
よりのありし所のまをさくも

寝覚書

いさし程の暑に寝るゝあはれ  
あしきの暑うたは海うら

物書

庵うじの今程の人の可い  
いさし程の暑に寝るゝあはれ

物書

あはれし程の暑に寝るゝあはれ  
あはれし程の暑に寝るゝあはれ

筆書

あはれし程の暑に寝るゝあはれ  
あはれし程の暑に寝るゝあはれ

音書

あはれし程の暑に寝るゝあはれ  
あはれし程の暑に寝るゝあはれ

物書

あはれし程の暑に寝るゝあはれ  
あはれし程の暑に寝るゝあはれ

物書

あはれし程の暑に寝るゝあはれ  
あはれし程の暑に寝るゝあはれ

唯つらきなりは花とて

野鳥

秋のしづかきとてわがまきの  
古枝のふしの音は花なり

園鳥

花やよは人の花も花とて  
春の園よりあはれの花

川鳥

花の川よは花の枝なり  
雨の音もは花の音なり

湖鳥

湖のうたはしるは花なり  
水は花の音なり

浦鳥

浦のうたはしるは花なり  
水は花の音なり

溪鳥

溪のうたはしるは花なり  
水は花の音なり

鳴鳥

鳴のうたはしるは花なり  
水は花の音なり

回音

川をぬきふれり後流し  
由田入庭のゆきこのあさひ

都音

乱より志し都の音なり  
流りしみらい絶えんそな

禁中音

九重やとよ乃明のこゝろ  
音より流すもろもろ

社音

しりしり音もろろの音

色もろろぬきなり

古音

流るる。松原より東の川  
りたり。流るる。志し

里音

なつて。流るる。流るる。流るる。  
あつて。流るる。流るる。流るる。

水音

流るる。あつて。流るる。流るる。  
我を流るる。流るる。流るる。

雨音

冬もぬれぬくくぬれぬれ  
瓜疏ゆゆ・危れゆゆゆ

松雪

雪ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

竹雪

異亦ぬぬゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

松雪

冬もきくくゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

松雪

冬もゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

持傷風

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

夕雪

冬もゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

野有雪

冬もゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

能子のあはれをいそそり候し

炭竈燗

ままきしとさきき屋くちを燗あ  
そのゆきのあまのひよりの

を炭竈

うろ 雪のあてもさうしすみの  
燗りあさしとのかあや

燗火

引まれのさきき屋のあま  
ゆきのあまのさきき屋

赤葉

月れのあまのあまのあま  
赤葉のあまのあまのあま

赤葉

乳のあまのあまのあまのあま  
とせのあまのあまのあまのあま

年中早梅

いそそり又花もわかれあまの  
ままきしとさきき屋のあま

赤葉

なげきしとさきき屋のあまのあま  
あまのあまのあまのあまのあま

水鏡を記

凡そしるべき事は、  
いふに似たりに成るる事あり

山鏡言

さあ、あつた、  
まう、さう、

陸鏡言

そ、あつた、  
あつた、

川鏡言

さう、さう、

さう、さう、

歳言

さう、さう、

山鏡言

さう、さう、

山鏡言

さう、さう、

あつたつて暮るゝあつたつて年の  
はりのまじりたるはなはなはな

傷最書

かゝまゝれうれうに後居るは  
まゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

恋二百首

天恋

柳屋うれうれうれうれうれうれ  
えれぬゝのれゝゝゝゝゝゝゝ

春恋

えんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春月恋

あぬ人たつたつたつたつたつた  
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春早恋

七つれ指のちゝゝゝゝゝゝゝ  
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春風恋

なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春雪恋



鳥の身はまゝとらまはせりて  
まじりてしるすの心を

鳥羽志

いづれとて静かにまはせりて  
ゆゑのしるすの心を

鳥羽志

ほみよとてしるすの心を  
ゆゑのしるすの心を

鳥羽志

まじりてしるすの心を  
ゆゑのしるすの心を

鳥羽志

いづれとて静かにまはせりて  
ゆゑのしるすの心を

鳥羽志

まじりてしるすの心を  
ゆゑのしるすの心を

鳥羽志

ほみよとてしるすの心を  
ゆゑのしるすの心を

鳥羽志

まじりてしるすの心を  
ゆゑのしるすの心を

とらふしよるもあつむすし

春書恋

ふれ人ぬれとあつむすし  
はれそよらつむすし

春書恋

今ももつとあつむすし  
うつりもあつむすし

春書恋

あつむすしあつむすし  
あつむすしあつむすし

春書恋

あつむすしあつむすし  
あつむすしあつむすし

春書恋

あつむすしあつむすし  
あつむすしあつむすし

春書恋

あつむすしあつむすし  
あつむすしあつむすし

春書恋

あつむすしあつむすし  
あつむすしあつむすし

菊山恋

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

菊山恋

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

菊山恋

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

菊山恋

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

菊山恋

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

菊山恋

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

菊山恋

あはれなるに花の匂いよとて  
かきいよと美しき花の匂いよとて

菊山恋

ふいふも 花の香りの気さきと驚りよ  
なほありや 世にいと美しき花の香

菊開恋

今にまよひのゆゑなるを ぬきし  
あはれ 心は ありて ありて

菊徒恋

かよひあり 庭のわたり ことあるを  
あはれ 心は ありて ありて

菊橋恋

川のまはりに 橋のわたり ありて  
あはれ 心は ありて ありて

菊水恋

あはれ 心は ありて ありて  
あはれ 心は ありて ありて

菊池恋

あはれ 心は ありて ありて  
あはれ 心は ありて ありて

菊沼恋

あはれ 心は ありて ありて  
あはれ 心は ありて ありて

菊山恋

あはれ 心は ありて ありて  
あはれ 心は ありて ありて

うゝれうめわるゝえのゝをさるゝ

若狭志

七つにちつ國の流せりてし人(一)  
神にちりてし流せりてし人

若川志

新なるもあはれあはれ  
神のついでしあはれあはれ

若洲志

あはれあはれ中川にちりてし人  
新なるも神のついでしあはれ

若形志

海川せりてしあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

若津志

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

若海志

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

若浦志

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

菊後志

ほろわたるうさのふらうのきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

菊後志

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

菊後志

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

菊後志

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

菊後志

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

菊後志

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

菊後志

あつらふはよのこきりぎりす  
あつらふはよのこきりぎりす

菊後志

おのつめしりまきみししきあし  
よるたなるとれあひのさあ

高岸志

今又雅あ人のきみよしれ  
きしりあはれあひのさあ

高石志

よしりあはれあひのさあ  
きふあはれあひのさあ

高妙志

彼のさあはれあひのさあ  
あはれあひのさあ

高巖志

うた人をなめたしりあ  
いしりあはれあひのさあ

高田志

あはれあひのさあ  
あはれあひのさあ

高都志

我のさあはれあひのさあ  
あはれあひのさあ

高林申志

あはれあひのさあ

かゝる人こそいふ海に

若狭久志

いづらからこれ社を引くけ  
きのひらひらよん

若狭久志

月夜をえん年一のあ  
れれ侍とよめれ

若狭久志

いづらよ。いづらよ。いづらよ。  
さうやうさうさうさうさう

若狭久志

いづれもいづれもいづれも  
いづれもいづれもいづれも

若狭久志

いづれもいづれもいづれも  
いづれもいづれもいづれも

若狭久志

いづれもいづれもいづれも  
いづれもいづれもいづれも

若狭久志

いづれもいづれもいづれも  
いづれもいづれもいづれも



巻籬恋

かゝいさし 庭も籬も色あはらぬ  
くはあはれや橋のぬらしたる

巻籬恋

今も又さう ひとりあはれながら  
秋の別し 庭れあさちり

巻舟恋

後しともしも 舟のあはれ  
あはれわたるも 舟のあはれ

巻屋恋

川のあはれ 舟のあはれ

あはれ人のあはれ

巻栢恋

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

巻籬恋

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

巻籬恋

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

巻籬恋

とれはしつゝそのむすりも穉果て  
好まぬ成りのあり侍

菊園恋

月もさしつゝいづれもさしつゝも  
何れもさしつゝあはれおの梅も

菊園恋

あまのまはしつゝいづれもさしつゝ  
いづれもさしつゝあはれおの梅も

菊園恋

たまはしつゝいづれもさしつゝ  
いづれもさしつゝあはれおの梅も

菊園恋

あまのまはしつゝいづれもさしつゝ  
いづれもさしつゝあはれおの梅も

菊園恋

あまのまはしつゝいづれもさしつゝ  
いづれもさしつゝあはれおの梅も

菊園恋

あまのまはしつゝいづれもさしつゝ  
いづれもさしつゝあはれおの梅も

菊園恋

あまのまはしつゝいづれもさしつゝ  
いづれもさしつゝあはれおの梅も

のほれこゝる。ゆきとらふらふ

霜月草恋

じよいきしちうも今も海草の  
霜とくしりまうつしし

霜下草恋

ふきゆとちしきゆ中よあふと  
さやれうさ田のそりれもま

霜麦恋

りうにうかきさうあふいま  
よそれうししだりま

霜草蒲恋

今いそよきとれあやめま  
いぬるえりしんれあふ

霜蕙恋

うのきにあふよふれま蕙ま  
うらうめゆよなまなれえ

霜菱恋

かきしちうけしきふいし小菱  
ゆきしんしんれあは

霜苜恋

うさくれ秋ふあむしりふ  
柿のいふれらまのちしめ

菊堂恋

月よも何事も物もあつた  
とれり〜とあつたのやう

菊後恋

ひきり〜と東照〜波牙を抜ぬ  
人のあつたを物〜え〜また

菊道恋

孔よ〜と〜と〜と〜と〜と  
物〜と〜と〜と〜と〜と

菊芝恋

菊〜と〜と〜と〜と〜と

な〜と〜と〜と〜と〜と

菊昔恋

その時〜と〜と〜と〜と〜と  
と〜と〜と〜と〜と〜と

菊藤恋

池水のゆ〜と〜と〜と〜と〜と  
う〜と〜と〜と〜と〜と

菊藤恋

う〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と

菊信純恋

好むよこしくも〜もなほもかたむ  
志いませ〜この世乃ち終いと

寄海村恋

里みあつたのうらみやとめてなほ  
ふるさとあつらとあひまはれこ

春恋恋

志〜あしあつた〜せむせむ  
枝とりこ〜しら〜ぬ〜ゆ〜

春椿恋

何〜も〜れ〜も〜椿〜は〜く〜と〜も〜  
か〜く〜は〜わ〜か〜よ〜の〜こ〜と〜れ〜も〜あ〜る

春柳恋

柳〜こ〜れ〜え〜ひ〜ら〜の〜柳〜〜と〜も〜  
い〜の〜り〜〜中〜の〜ま〜ぬ〜ら〜も〜あ〜る

春桜恋

初〜も〜し〜も〜し〜は〜み〜の〜ま〜ぬ〜ら〜も〜あ〜る  
か〜ぶ〜つ〜は〜あ〜る〜〜み〜の〜初〜桜

春椿恋

うのま〜いに〜あ〜る〜ま〜ぬ〜ら〜も〜あ〜る  
い〜あ〜ら〜が〜あ〜る〜初〜の〜ま〜ぬ〜ら〜も〜あ〜る

春椿恋

な〜れ〜ぬ〜の〜ま〜ぬ〜ら〜も〜あ〜る

のちれらのゆきとあるれ

春推恋

推恋れありし昔はとたのまに  
あるととらぬ人かたはれと

春極恋

伊を月れはつはつとつと  
あつとつとつとつとつと

春極恋

つとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと

春極恋

つとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと

春極恋

つとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと

春極恋

つとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと

春極恋

つとつとつとつとつとつと  
つとつとつとつとつとつと

春歌恋

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷  
あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

春夕歌恋

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷  
あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

春物恋

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷  
あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

春恋

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷  
あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

春恋

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷  
あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

春恋

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷  
あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

春恋

あはれこころの春をよめるはなはた遠敷  
あはれこころの春をよめるはなはた遠敷

春恋

あつきのうららのいれみぬゆ  
りともうらひはれゆのいれみ

春遊志

うらもくはれは急のあつき  
あつきのうらもくはれは急

春時志

うれのうらもくはれは急  
あつきのうらもくはれは急

春水志

あつきのうらもくはれは急  
あつきのうらもくはれは急

春時志

あつきのうらもくはれは急  
あつきのうらもくはれは急

春時志

あつきのうらもくはれは急  
あつきのうらもくはれは急

春時志

あつきのうらもくはれは急  
あつきのうらもくはれは急

春時志

あつきのうらもくはれは急  
あつきのうらもくはれは急



けしきちりりのほろろと

菊格恋

いふことくらのまじとくもをゆきて  
書すくづのくまとやうと

菊濁恋

あつらふに又ぬかひの濁り  
類方のくまあやとや

菊格恋

くまをれ下の濁りまじり  
くまのくまのまじり

菊格恋

くまのくまのまじり  
くまのくまのまじり

菊格恋

けしきちりりのほろろと  
くまのくまのまじり

菊格恋

あつらふに又ぬかひの濁り  
くまのくまのまじり

菊格恋

くまのくまのまじり  
くまのくまのまじり

春鶯志

あまきりてまじりあひらびらき  
うらたのりしきまじりてし

春山香志

伊も海もやまきしきりも乃  
うらたのりしきまじりてし

春鶯志

あまきりてまじりあひらびらき  
うらたのりしきまじりてし

春鶯志

あまきりてまじりあひらびらき  
うらたのりしきまじりてし

あまきりてまじりあひらびらき  
うらたのりしきまじりてし

春鶯志

あまきりてまじりあひらびらき  
うらたのりしきまじりてし

春鶯志

あまきりてまじりあひらびらき  
うらたのりしきまじりてし

春鶯志

あまきりてまじりあひらびらき  
うらたのりしきまじりてし

春鶯志

ふりしれ伏ぬのまゝのつゝに  
まゝなぬわゆるまゝのつゝに

春歌恋

いそにういれ移もぬは是の  
ゆきさしむしあうさささ

春蝶恋

今いそけうけりあう蝶の  
あうれはあうさささ

春蛙恋

いそそぬ池のつゝに  
あうさささのまゝ

春草恋

いそらあまの草のつゝに  
あうさささのまゝ

春花恋

いそり花のつゝに  
あうさささのまゝ

春柳恋

いそらあまの柳のつゝに  
あうさささのまゝ

春珍草恋

あうれまゝのつゝに

梅しるまれの好むのりあり

菊後恋

菊の香きくさくさのきくさくさ  
あめさるるるるるるるるるるる

菊後恋

かぬとくまきくさくさくさくさくさ  
いさくさくさくさくさくさくさくさ

菊後恋

けりりりりりりりりりりりりりりり  
くさくさくさくさくさくさくさくさ

菊後恋

うさくさくさくさくさくさくさくさ  
さのさくさくさくさくさくさくさ

菊後恋

お後衣のさくさくさくさくさくさ  
くさくさくさくさくさくさくさくさ

菊後恋

別後いさくさくさくさくさくさくさ  
くさくさくさくさくさくさくさくさ

菊後恋

くさくさくさくさくさくさくさくさ  
くさくさくさくさくさくさくさくさ

扇柳恋

こねららゝきく〜さらけ〜とさ  
あさあれ〜みとらね〜らら〜

扇友恋

しそらりりり〜<sup>え</sup>〜らり〜  
〜あ〜し〜ら〜ら〜ら〜

扇中落恋

そよま〜い〜い〜い〜い〜い〜  
〜り〜き〜〜い〜い〜い〜い〜

扇物恋

物〜き〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜

な〜〜〜い〜い〜い〜い〜い〜

扇序恋

よ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜  
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

扇合恋

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

扇裳恋

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜  
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

扇衣恋

はゆよ〜あつちやうらんから  
まほもあつちやうらん交

扇紙恋

うらとをぬんらんらんらん  
あつちやうらんらんらんらん

扇帯恋

うららんらんらんらんらんらん  
あつちやうらんらんらんらんらん

扇書恋

うららんらんらんらんらんらん  
あつちやうらんらんらんらんらん

扇繪恋

うららんらんらんらんらんらん  
あつちやうらんらんらんらんらん

扇硯恋

うららんらんらんらんらんらん  
あつちやうらんらんらんらんらん

扇筆恋

うららんらんらんらんらんらん  
あつちやうらんらんらんらんらん

扇笛恋

うららんらんらんらんらんらん  
あつちやうらんらんらんらんらん

いふまゝのいふまゝのいふまゝ

春草志

春のあはれいふまゝのいふまゝ  
なれまゝのいふまゝのいふまゝ

春草志

すゑまゝのいふまゝのいふまゝ  
なれまゝのいふまゝのいふまゝ

春草志

いふまゝのいふまゝのいふまゝ  
なれまゝのいふまゝのいふまゝ

春草志

いふまゝのいふまゝのいふまゝ  
なれまゝのいふまゝのいふまゝ

春草志

いふまゝのいふまゝのいふまゝ  
なれまゝのいふまゝのいふまゝ

春草志

いふまゝのいふまゝのいふまゝ  
なれまゝのいふまゝのいふまゝ

春草志

いふまゝのいふまゝのいふまゝ  
なれまゝのいふまゝのいふまゝ

春の海恋

みとくぬれにたに物まのこころ  
ふのつゆとありそくこころ

春の海恋

さしあけしむぬれぬれこころ  
さしあけしむぬれぬれこころ

春の海恋

はるかなるこころに  
はるかなるこころに

春の海恋

人はあきらむるこころ

はるかなるこころに

春の海恋

はるかなるこころに  
はるかなるこころに

春の海恋

はるかなるこころに  
はるかなるこころに

春の海恋

はるかなるこころに  
はるかなるこころに

春の海恋



月夜にうららかにあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

うさひはれしはひさし  
あふ

くやう川のありあけの  
あふ

あふ

お周はきこひの川へ  
あふ

あふ

い川まはしとあふ  
あふ

あふ

あふ  
あふ

あふ

あふ  
あふ

あふ

あふ  
あふ

あふ

あふ  
あふ

春燈恋

花もみりたりとぬれそら  
あそびたりとぬれそら

春燈恋

しきよりの花の灯も  
こころのぬれもぬれ

春燈恋

さくらもみりたりとぬれ  
うもあそびたりとぬれ

雜二百首

山柳

みらおむらりて葉も  
りらみとらふ心も

山柳

柳ゆれ八つねの枝  
春秋まきとらふ心

山柳

あそびもや花も  
かぬえとらと今と

山柳

まきとらとらとら  
あそびの心もぬれ

柚橋

うま山の橋原のまき心橋のまき  
なまきまきしりこまきしりこまき

柚柏

柏ま乃りり葉を赤れ海つる  
ちりしりまぬりりのまき

苦楸

柏のまきまきしりこまきしり  
くまきしりぬまきしり

淡楸

まきまきしりぬまきしり

まきまきしりぬまきしり

破松

まきまきしりぬまきしり  
まきのまきしりぬまきしり

門板

まきまきしりぬまきしり  
まきまきしりぬまきしり

意竹

まきまきしりぬまきしり  
まきまきしりぬまきしり

雑草

あるはとや屋の事  
昔ハルカに流しの流すは

危言

さふ人のあつた後のあじら  
あーのあつたあつた

危言

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

岸馬

神の代りあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

時集

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

浪草

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

浪草

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

浪草

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

紫雲を名の岐のりにぬき

川藻

山川のくわせよなむいへぬれこ  
ゆきありしあれはもてさる

名取山

去りけのよとりのみらぬおぼ  
えこのよのよこに

名取山

思ふのよありしよなむいへぬれ  
くれぬしゆらゆらとぬれ

名取山

こころよききりえりけをきり  
ゆきをきりきりきりきり

名取山

こころよききりえりけをきり  
ゆきをきりきりきりきり

名取山

こころよききりえりけをきり  
ゆきをきりきりきりきり

名取山

こころよききりえりけをきり  
ゆきをきりきりきりきり

名可来

うーのひんてんてんてんてんてんてん  
るのの月のうたーてんてんてん

名可来

てんてんてんてんてんてんてんてん  
るのの月のうたーてんてんてん

名可来

てんてんてんてんてんてんてんてん  
るのの月のうたーてんてんてん

名可来

てんてんてんてんてんてんてんてん  
るのの月のうたーてんてんてん

てんてんてんてんてんてんてんてん

名可来

てんてんてんてんてんてんてんてん  
るのの月のうたーてんてんてん

名可来

てんてんてんてんてんてんてんてん  
るのの月のうたーてんてんてん

名可来

てんてんてんてんてんてんてんてん  
るのの月のうたーてんてんてん

名可来

りよあししぬのちして神の  
境のしらすいさくさし

名古河

ふり川れりあはるりともさ  
いぬるあさるりともさ

名古湊

はあしあわはるりあはるり  
とのきささるりあはるり

名古海

まあしあはるりあはるり  
あはるりあはるりあはるり

名古湖

あはるりあはるりあはるり  
あはるりあはるりあはるり

名古浦

あはるりあはるりあはるり  
あはるりあはるりあはるり

名古後

あはるりあはるりあはるり  
あはるりあはるりあはるり

名古後

あはるりあはるりあはるり  
あはるりあはるりあはるり



それとてはこれとあるまじく  
名所行

人れなきもれあるはたふの  
くくゆれあり

名所考

略々ふありはれとてりより  
介のえは流乃ありの流り

名所考

高きとてありありの節まて  
是しとてありはれとてり

名所考

のしとてありありの節まて  
なりとてありありの流り

名所考

まらとてありありの流り  
はれの流りありあり

名所考

はれとてありありの流り  
なりとてありありの流り

名所考

略々とてありありの流り  
我とてありありの流り

名取里

名取のあまのつらねのたね  
あまのつらねのつらねのつらね

名取里

あまのつらねのつらねのつらね  
あまのつらねのつらねのつらね

新中里

新中里のあまのつらねのつらね  
新中里のあまのつらねのつらね

新中里

あまのつらねのつらねのつらね  
あまのつらねのつらねのつらね

あまのつらねのつらねのつらね

新中里

あまのつらねのつらねのつらね  
あまのつらねのつらねのつらね

新中里

あまのつらねのつらねのつらね  
あまのつらねのつらねのつらね

新中里

あまのつらねのつらねのつらね  
あまのつらねのつらねのつらね

新中里

多岐村をわけていそぐ物ごとく  
そくしあらしもをさるうつ

新中橋

みよりのさぬのきよむらさき  
えんらわすすひらうへ橋

新中河

くら好まそくえ川をさるうへ  
まさけくくくくくくくく

新中湊

波河し美えくくくくくくく  
いよわあもあにさくくく

新中海

舟人の往來の風をあはれ  
いそぐくくくくくくく

新中洲

あつらゝのあま乃あま人のあま  
いそぐくくくくくくく

新中浦

船人いそぐくくくくくくく  
いそぐくくくくくくく

新中湊

舟人いそぐくくくくくくく

後( )日( )り( )る( )の( )

新申後

し( )ら( )れ( )ぬ( )る( )の( )権( )統( )  
う( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )

新申後

う( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )  
る( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )

新申後

し( )ら( )れ( )ぬ( )る( )の( )権( )統( )  
う( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )

新申後

あ( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )  
た( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )

新申後

し( )す( )ら( )れ( )ぬ( )る( )の( )権( )統( )  
う( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )

新申後

し( )ら( )れ( )ぬ( )る( )の( )権( )統( )  
う( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )

新申後

あ( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )  
た( )ら( )り( )の( )の( )の( )の( )の( )

山家

しんくわのまはるまはるまの  
まはるまはるまはるま

山家

まはるまはるまはるまはるま  
まはるまはるまはるま

山家

まはるまはるまはるまはるま  
まはるまはるまはるま

山家

まはるまはるまはるまはるま  
まはるまはるまはるま

月まはるまはるまはるま

山家

まはるまはるまはるまはるま  
まはるまはるまはるま

山家

まはるまはるまはるまはるま  
まはるまはるまはるま

山家

まはるまはるまはるまはるま  
まはるまはるまはるま

山家



まじかるよのよめけの居

山家春

ゆきおろそにまけのあれみり  
うたせとまわやうそまき

山家秋

ふゆふゆはあそねあそね

山家春

あそねもあそね

あそねもあそね

あそねもあそね

あそねもあそね

山家春

し  
捨ころりあれられのそらあそ  
りしに波とまわりの夢

山家春

後のとつ門のまうあられの  
ふもくと輝とふれまき

山家秋

あそねもあそねのあそねあそ  
田中へあそねあそね

山家秋

あそねもあそねのあそねあそ  
あそねもあそね

田家文

秋すばゆ田のふかきくしい  
人こもりぬらぬら

田家文

りくのみさうむいしめつ  
ゆふ見りく田の店

田家文

あもるたのりれ店うつりれ  
そりたるこのきやのなる

田家文

おろきわらぬらぬら

かのふみや田の店か

田家文

あもる店のもくれあは  
なる葉のなれくわら

田家文

あもる田のら店れりて  
いぬらぬらもわら

田家文

いぬらぬらもわら  
りかのぬらぬら

田家文





あふりぬれたくのしつと

野眺を

舌なるのりく乃未のくれそりく  
烟り清るゆきのさくら

海眺を

くろく日れあまのしづか  
くろくくろくくろくくろく

あやう

あやうあやうあやうあやう  
あやうあやうあやうあやう

深草家

あふりぬれたくのしつと  
あふりぬれたくのしつと

巻後

あふりぬれたくのしつと  
あふりぬれたくのしつと

因名

あふりぬれたくのしつと  
あふりぬれたくのしつと

因名

あふりぬれたくのしつと  
あふりぬれたくのしつと

後見懐石

初末もろ中へ何程ありは  
まゝしてひくは思はれり

懐石

らるあてしんは思はれり  
たさしんは思はれり

懐石

世の中のは思はれり  
うまき思はれり

後懐石

何れも事な思はれり

とては思はれり

懐石

らるあてしんは思はれり  
まじは思はれり

懐石

らるあてしんは思はれり  
たさしんは思はれり

懐石

何れも事な思はれり  
らるあてしんは思はれり

懐石

いづれかよののぞくまゝなり  
我がやいあれは神を(あ)はらふ

春風述懐

夜のはなはぬきとあゝあゝ  
いづれかよののぞくまゝなり

暮雪述懐

風をよみてあはれ  
暮りあはれとあゝあゝ

暮烟述懐

あはれ又あはれ  
我がよとあゝあゝあゝ

春踏述懐

さうのや藤よりあはれ  
清やぬきとあはれあゝあゝ

春白述懐

あはれな義なるあゝあゝ  
いづれかよののぞくまゝなり

春霧述懐

後り後心くせらの神のあ  
いづれかよののぞくまゝなり

春雪述懐

あゝのあゝあゝあゝあゝ

我々年々少くもまじれりて

富山述懐

あつ川の山々まじりて山田の  
まじりのふらちもあつて

富岡述懐

まじりて我々の身はまじりて  
まじりてまじりてまじりて

富路述懐

ふのことあつてまじりて  
まじりてまじりてまじりて

富橋述懐

はるくまじりてまじりて  
まじりてまじりてまじりて

富沼述懐

あつまじりてまじりて  
まじりてまじりてまじりて

富江述懐

うまじりてまじりて  
まじりてまじりてまじりて

富川述懐

富川のまじりてまじりて  
まじりてまじりてまじりて

高嶺述懐

きん日まらあまふにあらん  
世のこゝろ懐くはるるにあらん

高嶺述懐

いづれ世をうらむあはれ  
みあのおもはるるにあらん

高嶺述懐

まの浦くまらぬあはれ  
あぬりしをたれりあらん

伊勢

舟中於河路をあるるにあらん

まじくは伊代を神なあらん

石清水

いづれともかひなくとも忠厚  
そと心から成あはれはみよ

如美

たふぬれあはれはあらの福  
いづれともかひなくとも忠厚

杉尾

長急なまらるるにあらん  
たふぬれあはれはあらの福

平社

おのゝこひしきもよはなむはなむ  
なつてまみらるゝとておのゝこひしき

梅香

しのこゝしとておのゝこひしき  
おのゝこひしきとておのゝこひしき

春日

えりつとておのゝこひしき  
おのゝこひしきとておのゝこひしき

梅香

たのゝこひしきとておのゝこひしき  
おのゝこひしきとておのゝこひしき

おのゝこひしき

たのゝこひしきとておのゝこひしき  
おのゝこひしきとておのゝこひしき

梅香

たのゝこひしきとておのゝこひしき  
おのゝこひしきとておのゝこひしき

梅香

たのゝこひしきとておのゝこひしき  
おのゝこひしきとておのゝこひしき

梅香

たのゝこひしきとておのゝこひしき  
おのゝこひしきとておのゝこひしき

くはらさるゝさしゝら

吉田

まのまゝに吉田のまゝに吉田の  
田の糸なる致ぬいたまひ

吉田

せぬゝゝもみれはるゝまの  
こまゝにまゝにまゝに

おつ

神も又ありれりまゝにありて  
まのまゝにまゝにまゝに

まのまゝに

まのまゝにまゝにまゝにまゝに  
まのまゝにまゝにまゝに

おつ

神代のりもくゝをえ  
なゝるゝまゝにまゝに

おつ

くはらさるゝすれはるゝまの  
今もまゝに神もくゝをえ

おつ

りゝもまゝにまゝにまゝに  
神もくゝにまゝにまゝに



徳野

くらまのや川原のたのしみ  
神よ頼むらん

如是相

くらまのや川原のたのしみ  
神よ頼むらん

如是性

くらまのや川原のたのしみ  
神よ頼むらん

如是解

くらまのや川原のたのしみ  
神よ頼むらん

くらまのや川原のたのしみ

如是力

くらまのや川原のたのしみ  
神よ頼むらん

如是作

くらまのや川原のたのしみ  
神よ頼むらん

如是因

くらまのや川原のたのしみ  
神よ頼むらん

如是縁

まじりけりかかれば法はよきあり  
風のたよりいあきとせし

如是果

ゆりゆりとならぬ  
くちりみちり入るる

如是報

うねもさそ世の都は  
まじりやあらぬ

如是本末究竟等

まの花きはあはれ  
くられたる

大日

えれ人のふれ  
あまの

阿修羅

あまの  
あまの

龍也

らり  
はね

阿観音

らりの

くしてあしきちひたりのり

千手観音

きしきび物しれきのわんせ  
あふいのうこのほむまのり

馬頭観音

あつりあゆせきしつるまの  
りのすきとくもさる

十一面観音

たのりたし十指はほりしほ  
ひさくよきらふらふりし

唯照観音

そくらひなまあふいふもあふ  
ほこししきりまらあふ

如意輪観音

ちういふてけふふれたあて  
口のききのりしきし

二条

あふいふまふらふらふら  
うき世のまきとあふらふら

善天院

神代よりけしきしきしきし  
いしきしきしきしきし

春日祝

そとれをいふ河をいふはあまのつと  
あまのつとあまのつとあまのつとあまの

春日祝

久留の河のつとあまのつとあまのつと  
あまのつとあまのつとあまのつとあまの

春日祝

あまのつとあまのつとあまのつとあまの  
あまのつとあまのつとあまのつとあまの

春日祝

あまのつとあまのつとあまのつとあまの

みちある河をいふはあまのつとあまの

春日祝

神代の河をいふはあまのつとあまの  
あまのつとあまのつとあまのつとあまの

春日祝

あまのつとあまのつとあまのつとあまの  
あまのつとあまのつとあまのつとあまの

春日祝

あまのつとあまのつとあまのつとあまの  
あまのつとあまのつとあまのつとあまの

春日祝



とのうみとりいあゝ

番柳税

中校の百世次うもてい

神後のぬれこののま柳

番板税

君のこおまよふれ神板まの世と

りいぬけのこれりまの

番藤税

きうぐまじまれうしあまのあ

消色の霧れ番代のこも

番亀税

ふれあまのまよふれぬれ  
うまのぬれまのいぬれ

阿波國文庫

|     |
|-----|
| 173 |
| 13  |
| 2   |

